

妊娠中の方、育児中の方、あなたにとってご主人はどんな存在ですか？
今回は当院スタッフのご主人にもアンケートにご協力いただきました。
その貴重な意見をもとにパパに焦点をあてて考えてみました。

女性の社会進出に伴ってパパの育児参加の重要性が高まっています。

「イクメン」という言葉も世に浸透しつつあるように
男は仕事、女は家といった考えから男の人も当たり前のように
育児参加する時代になりつつあります。

そんな流れの変化に伴って
実は男の人はどうあるべきか
揺れているのではないでしょか……

アンケート

1

「父親になった」といつ実感するの？

- 安定期に入っすぐ
- 妻のお腹が動くようになったころ
- 予定日が近くなるにつれだんだんと
- 産まれてすぐ抱っこをした時
- 子供の顔を見た時
- 産まれた時の携帯電話の待ち受け画面にした時
(今も待ち受け)
- 名前を付けた時
- 子どもの出生届を出した時
- 学資保険の満了年月日がありえない位先だった時
- 妻が母親の顔つきになり微笑みながら
子供を見つめているのを見た時

一般的に母性より父性の芽生えは
遅いと言われています。

パパの年齢によっても意識の変化は異なります。
赤ちゃんとの初回接触が早いほど父親としての実感が
生じる時期が早く、父親からの被養育経験、これまでの
幼少の子どもとの接触経験などが
父性の芽生えに関与しています。

やっぱり
人それぞれ
違います…



アンケート

2

子供が成長する過程でどのような気持ちの変化がありましたか？

- 自分も成長しなくてはいけないと思うようになった
- 気が長くなった
- 育児をしなければいけないという感じが、いつの日かしてあげたいと思うようになった
- 自分も一緒に年老いていることをだんだん実感してきた
- 大きくなるにつれて自分と同じようなところで苦労していくのだろうなと思って
いたが自分とは性格も能力も違う別人だと気付いてからは心配なくなった
- 健やかに成長してくれて嬉しく楽しみに思う反面このまますぐに大人に
なり嫁いでいってしまうのでは…と寂しくなるようになった
- 夫婦だけの時期よりもより一層生活が楽しく感じられる
- 仕事に身が入るようになった

パパだって
成長しているのです



パパが育児にかかわると
子供の発達により影響が。

- ・友達から受容され、良好な友人関係が築ける。社会性が発達する。
- ・年齢とともに柔軟性を持った性役割行動がとれる。
- ・ママの情緒的サポートにもなるため間接的に子どもがのびのび育つ。



これらの前提になるのは父親になったことへの負担感、否定感を持たず肯定的に受け止め育児していること。またパパの育児などの行動がママから好意的に受け止められ、ママがパパから精神的な支えを受けているという意識があること。

つまり! パパは頑張っていると思ってもママはそうは思わなかったり、育児に対してずれが生じたりするとこれらのことはプラスには働かなくなります。

ママはパパの育児に対して否定的になっていませんか?

ママはパパの頑張りを認めていますか?

アンケート 3

ママのがっかりした行動はありますか?

- 育児ではなく一緒に遊んでいるだけ 甘やかしているだけと言われたこと
- 子どもと同時期に熱を出して「こんな時になぜ熱を出すのか」と怒られ「病院だけは連れて行ってあげるわ」と言われたこと
- すぐ寝る
- 固い食べ物や、熱い食べ物を与えている時にテレビに集中して見届けていないこと

ママも不満はあるけど…
パパにだって言い分はある!

パパにも産後うつが
あるって知って
いますか?

麻酔科の山崎です。3人目を生みました!



実はパパにも「産後うつ」があり「パパニティーブルー」とも呼ばれるそうです。原因は育児と仕事のバランスが上手く取れないことや、妻の期待に添えないこと、子どもを迎えて新しい生活に慣れないこと、妻が子どもしかみていないこと、夫婦の会話がなくなったことなど様々。



パパも色々考えていますね

夫婦でよく話し合い、お互いが
納得する役割分担を築くことが
大事なのかもしれません。

アンケート 4

育児するうえでの不安はありますか?

- ちゃんと発達してくれるか
- ちゃんと進学、就職できるか 一人前に成長してくれるか
- わがママが激しく思い通りにならないければ人を攻撃したり泣いたりするので人には思いやりを持って接する優しい子に育てられるか不安
- 健康面と経済面に不安
- 妻不在時に子どもに何かあった時対処できるか不安

最後に・・・「ママに一言どうぞ」という記入欄ではパパは全員「ありがとう」と書いていました。

ママはパパに「ありがとう ♥️」と言っていますか?

お互いが思いやることで夫婦円満にいき、その姿を見て子どもは安心して成長できるのではないのでしょうか。

文責：助産師 久保 良美 看護師 加藤 亜矢香 参考文献：尾形和男編著 父親の心理学 ㈱北大路書房2013